

序

平成元年度より厚生省心身障害研究の一環として、小児期からの慢性疾患予防対策に関する研究班が発足した。

最近、成人病の予防は小児期、とくに幼児期から開始すべきであるとされるようになってきている。これは10歳代の小児の大動脈の病理学的検討成績では、既に98%に動脈硬化の初期病変が起きていることが明らかにされ、また学童、高校生で動脈硬化危険因子を持つものが多いことが明らかにされ、早く成人病になる悪い生活習慣は、幼児期にすり込まれることが想定されることによる。

児童、生徒のもつ危険因子については、5～15%において高コレステロール血症が認められ、高血圧も2～3%に認められており、肥満児も5%前後に認められることが明らかにされている。しかし幼児期においては十分な調査研究がなされていない。

また児童、生徒において高脂血症を示すものが多くなった原因としては、幼児期の食生活が大きく影響していると考えられるが、この点についても大きな調査はなされていない。

本研究班においては、高齢化時代を控え、成人病予防は幼児期より開始すべきであるという前提に立ち、その戦略を確立し、具体的な実施方法について検討せんとするものである。

本研究班には協議会が設置され、小児成人病の概要の整理、小児成人病対策の重要性の社会的アピール、研究の方向性の検討、長期フォローアップ・スタディの企画、事業化に向けての提言が行われることになっている。協議会のメンバーは以下のごとくである。

< 協議会のメンバー >

大 国 真 彦	日本大学医学部
坪 井 栄 孝	日本医師会
木 島 昂	日本小児科医会常任理事
北 川 照 男	日本大学医学部
高 石 昌 弘	国立公衆衛生院
小 林 登	国立小児病院
平 山 宗 宏	日本総合愛育研修所
北 川 定 謙	病院管理研究所
鴨 下 重 彦	東京大学医学部
村 田 光 範	東京女子医科大学附属第二病院
北 徹	京都大学医学部
長 畑 正 道	筑波大学
香 川 芳 子	女子栄養大学
小 林 修 平	国立栄養研究所

協議会においては、まず小児成人病の概念について討議し、次のように定義した。今後の研究の基本となるものである。

小児成人病とは、小児期のライフスタイルの改善等により予防し得る成人病を言う。

以下に示す内容に分類される。

(1) 成人病がすでに小児期に顕在化しているもの

糖尿病, 虚血性心疾患, 消化器潰瘍

(2) 潜在している成人病

動脈硬化の初期病変が10歳代小児の98%にみられる。

(3) 成人病の危険因子がすでに小児期にみられるもの

成人病予備軍(肥満児, 高脂血症児, 高血圧児等)

本研究班の構成は次に示すごとくである。

< 主任研究 >

主任研究者	主任研究課題
大 国 真 彦(日本大)	小児期からの慢性疾患予防対策に関する研究

< 分担研究 >

分担研究者	分担研究課題 * 研究協力者	期待される研究成果
<p>村田 光 範 (東京女子医大)</p>	<p>小児期の成人病危険因子の実態把握に関する研究</p> <p>* 奥野 晃正 (旭川医大) * 松田 博 (愛媛大) * 本田 憲 (福岡こども病院) * 梁 茂雄 (沼津市立病院) * 永野 久子 (高知女子栄養短大) * 齋藤 康 (千葉大) * 小川 英治 (岩手県医師会) * 衣笠 昭彦 (京都府立医大) * 羽場 泰男 (こどもの城)</p>	<p>・小児成人病の実態把握し特に頻度のデータの整備</p>
<p>大 国 真 彦 (日 本 大)</p>	<p>小児期の成人病危険因子の効果的検出方法の開発に関する研究</p> <p>* 河合 忠 (自治医大) * 坂本 元子 (和洋女子大) * 青木純一郎 (順天堂大体育学部) * 大木師礎生 (保育園医協議会) * 加藤 裕久 (久留米大) * 堺 薫 (新潟大) * 山内 邦昭 (東京都予防医学協会) * 藪内 百治 (大阪府立母子保健総合医療センター)</p>	<p>・小児成人病対策に関する検索下記の開発 ・小児成人病対策のスクリーニング実施方法の開発</p>

平成 2 年 3 月

小児期からの慢性疾患予防対策に関する研究班

主任研究者 大 国 真 彦



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



序

平成元年度より厚生省心身障害研究の一環として小児期からの慢性疾患予防対策に関する研究班が発足した。

最近,成人病の予防は小児期,とくに幼児期から開始すべきであるとされるようになってきている。これは10歳代の小児の大動脈の病理学的検討成績では,既に98%に動脈硬化の初期病変が起きていることが明らかにされ,また学童,高校生で動脈硬化危険因子を持つものが多いことが明らかにされ,早く成人病になる悪い生活習慣は,幼児期にすり込まれることが想定されることによる。

児童,生徒のもつ危険因子については,5~15%において高コレステロール血症が認められ,高血圧も2~3%に認められており,肥満児も5%前後に認められることが明らかにされている。しかし幼児期においては十分な調査研究がなされていない。

また児童,生徒において高脂血症を示すものが多くなった原因としては,幼児期の食生活が大きく影響していると考えられるが,この点についても大きな調査はなされていない。

本研究班においては,高齢化時代を控え,成人病予防は幼児期より開始すべきであるという前提に立ち,その戦略を確立し,具体的な実施方法について検討せんとするものである。本研究班には協議会が設置され,小児成人病の概要の整理,小児成人病対策の重要性の社会的アピール,研究の方向性の検討,長期フォローアップ・スタディの企画,事業化に向けての提言が行われることになっている。協議会のメンバーは以下のごとくである。